弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため，患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので，お知らせいたします。

臨床研究名称：　精液検査正常男性での精液中酸化還元電位と体外受精胚移植治療成績についての検討

研究の目的

従来の精液検査は男性不妊の評価に広く用いられていますが、近年、精子機能をより詳細に評価するための新たな指標が提案されています。その中でも、酸化ストレスは男性不妊と関連があることが示されており、精液中の酸化還元電位（static oxidation-reduction potential, sORP）は精液の酸化ストレスレベルを反映する指標として注目されています。精液検査で異常を示す場合は、体外受精胚移植（IVF-ET）治療成績に影響しうることは報告されていますが、精液検査正常男性における sORP が IVF-ET の治療成績にどのような影響を及ぼすかについては、まだ明らかになっていません。

本研究では、従来の精液検査では正常である不妊症男性における精液中 sORP と IVF-ET 治療成績との関連を検討することを目的とします。本研究を通じて、sORP が IVF-ET 治療における予後予測因子となり得るかを明らかにし、臨床的な有用性を検証することを目指しています。

研究実施期間：　実施許可日～2026 年 3 月 31 日

対象となる方：　2017 年 4 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日までの期間、附属病院産婦人科において、体外受精胚移植による治療を施行された患者さんのうち、男性の精液検査が正常であった方。

利用させていただきたい試料・情報について

当院の診療録に記録されている情報のうち，以下の情報を標記研究課題実施のために利用します。

1) 年齢、既往歴、合併症、妊娠分娩歴、不妊治療歴
2) 診察所見や検査データ
3) IVF-ET に関する情報（卵巣刺激方法、検査データ、受精率、媒精方法、胚発生率など）
4) IVF-ET の治療結果（妊娠の有無や妊娠経過も含む）

これらの情報をもとに、精液中 sORP と IVF-ET 治療成績との関連について検討します。

なお、利用に当たっては氏名・住所・電話番号・患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して行います（これを匿名化といいます）。

研究成果については，学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。また、本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、情報の利用に同意いただけない患者さん／その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承願います。

本件連絡先	周産母子センター・福原　理恵 連絡先 0172-39-5107/ fukuhara@hirosaki-u.ac.jp